
2023年度 学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

報告者 校長 石橋恵二

I 自己評価

1. 本校の教育目標

「校訓」 正しく 強く 美しく

2. 本年度の重点目標

- 1) 教科横断的な学びを考え、計画的に指導を展開する
- 2) インクルーシブ教育(混合教育)を一層推進する
- 3) 自閉症児の社会自立に向けた「ライフスタディ」という新たな学びを指導に入れる

3. 重点目標についての評価(A~D)と取り組み状況や課題

A・・・達成できた B・・・概ね達成できた C・・・達成が不十分 D・・・達成できていない

1) 教科の枠を超えた横断的な学びについて(B)

- ・ 学年ごとに「学習テーマ」を設け、一つの学習テーマを多面的な方法で探究をしていった。本年度も音楽と英語、生活と図工、算数と社会科といった「コラボ授業」を数多く行った
- ・ 校外学習に結びつけて学習を進める学年は多く、当日の見学や体験にとどまらず事前事後の学習も充実した。
- ・ 「学習テーマ」は1月には検証し、次年度のテーマ設定を明確にする。

2) 「こころの教育」の推進について(A)

- ・ 「ともに生きていく」授業は、これまで理解教育を中心に進めてきたが、今年度からA~E組までが一緒に学び、活動する時間に進化させた。
- ・ 道徳「こころ」のカリキュラム内容を大きく変え、「哲学対話」を実践した。他者の考えを受け止め、知ることから自分の考えを深め、それをアウトプットすることにつながった。
- ・ 昨年度は教育懇談会や保護者研修会でその取り組みを紹介したり、卒業生である本校教員に経験から言えることを語ってもらったりした。本年度はAB組とCDE組の合同の保護者懇親会を開催し、体育祭前の学年競技の様子を見学してもらい、その後、競技のチームごとにグループ分けをしてお互いの子どもの理解を深めてもらおう企画をし、大変好評であった。

3) 自閉症児クラスの「ライフスタディ」について(B)

- ・ 子どもたちが社会で生きていくために必要とされる知識や教養を学ぶ時間を確保するようにした。
- ・ 特に小学生の時代に体験したり、学習したりしたほうがよい事項を挙げ、分類して活動をした。

4. 総合的な評価と今後の課題

共通のテーマを設けることで、導入の段階から関心・意欲が高まった。また校外学習と大きく関わったことで体験的活動の充実度が変わったと考えている。

与えられた課題を素直に取り組むだけでなく、「なぜ」、「どうして」、「知りたい」と、自ら「探究する力」を育むことにつながった。

調べ学習において、多くの情報から必要なことを精査する「選ぶ力」「判断する力」がついてきており、発表をして友だちと意見を共有していくことで、「まとめる力」「話す力」「伝える力」を育むことにつながった。

今後の課題としては、これまでのようにSGDsにつながる取り組みにはこだわらず、「学習テーマ」は幅広く学べるようなテーマ設定にしていきたい。

II 学校関係者評価

1) 教科の枠を超えた横断的な学びについて

- ・ 保護者が授業参観、学園祭等、様々な場面で途中経過や成果物を見せていただけたのはよかった。
- ・ 家で子どもから聞く話だけでなく、具体的な取り組みを継続して示してもらえて、よく理解できた。

2) 「こころの教育」の推進について

- ・ 今年度は保護者同士の交流の機会があつてとてもよかった。普段の子どもの学校での様子を、交流の場で聞くこともできた。継続的なものになるとなおい。
- ・ どのように関わるかを考えさせる時間になっている。低学年の関わりは「肌感覚」のようなところがあるが、高学年では個々の特性を知り、それを文字化、言語化もできてくることを期待する。
- ・ 「哲学対話」の試みは、子どもが懸命になって「考える」ことをしていて、授業があつた日は家庭に帰ってきててもその話題が継続しているほどであった。

3) 自閉症児クラスの「ライフスタディ」について

- ・ 社会科、理科、英語の分野を子どもたちにわかるように、また楽しめるように学習を展開してくれて、有り難かった。
- ・ 日常生活と「ライフスタディ」で学習していることが結びつき、知識として定着が図られていることを実感している。